

わくわく体験塾～みつけよう！若狭の音と色～

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
28	57	28	参加者人数28名 (福井県16名 滋賀県6名 京都府4名 奈良県1名 愛知県1名)

2. 事業内容（概要）

◆事業のねらい

- ・若狭地域の歴史・文化にふれ、すばらしさに気づく。
- ・大自然での体験を通して、自然の偉大さを学ぶ。
- ・仲間との交流を通して、友情を育み、多くの思い出を作る。

◆期日・期間

2011年10月8日（土）～2011年10月10日（月） 2泊3日

◆後援・協力団体

福井県・岐阜県・愛知県・滋賀県・京都府 各府県教育委員会

◆参加者分析

- ・募集人数28名を超える57名の応募があった。嶺南地域（5施設のある地域）からの応募が全体の約7割を占めた。
- ・小学4年生の応募が多く、小学生時代の体験的な活動に対する期待が、参加者・保護者とも高いことがうかがえた。
- ・ホームページを見ての応募や、各学校配布のチラシを見ての参加者が多く、中には当施設の教育事業参加リピーターの応募もあった。

◆企画のポイント

◇プログラム

月日	内 容															宿泊場所	
	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
10月8日（土）					受 付	開 講 式	火 土 お 笛 こ 作 し り	昼 移 食 動	ス リ ノ ン グ ケ	夕 日 観 察	薪 拾 い	夕 食	入 浴	振 返 り	就 寝	若狭湾 青少年 自然の家	
	若狭歴史民俗資料館					若狭湾青少年自然の家											
10月9日（日）	起 床	朝 の 食 集 い	朝 の 食 集 い	清 掃	カ 漕 ツ 艇 タ 		昼 食	3 D 映 画	館 内 見 学	海 釣 り	移 動	夕 食	星 空 観 察 フ ァ	キ ヤ ン プ ア	入 浴 返 り	就 寝	三方 青年の家
	若狭湾青少年自然の家					海浜自然センター					三方青年の家						

普及啓発事業

月日	内 容																
	6	7	8	9	10	11	12	13	14								
10月10日	起床	朝食	清掃	移動	館内	映画	勾玉	移動	昼食	閉講	式	解散					
(月)	三方青年の家				若狭三方縄文博物館				三方青年の家								

本事業は、福井県立若狭歴史民俗資料館・福井県海浜自然センター・福井県立三方青年の家・若狭三方縄文博物館と当施設が連携して企画・運営するものである。5つの施設をまわりながらそれぞれの施設で特色あるプログラムを体験する内容とした。

本年度は、「見つけよう！若狭の色と音」というサブタイトルのもと、体験を通して若狭の歴史や文化について学んでいくことをテーマに実施することとした。

星空観察 中塚一成氏（若狭図書学）

◆運営のポイント

- ・各施設の運営は担当施設スタッフが行うことを原則としたが、活動内容に応じて他施設スタッフも協力して運営できるようにした。
- ・アイスブレイキングにも意識して取り入れ、3日間の生活や活動を共にする仲間との交流を図った。また、子どもたちの活動を直接支援するボランティアは、班付き指導を中心に、子どもたちが安心・安全に3日間生活できるように配慮した。
- ・5つの施設をすべて回ることから、移動順序活動内容を検討し、移動時間を可能な限り短縮し、ゆとりのある活動を計画した。

◆安全管理のポイント

- ・活動を行う担当施設スタッフを中心に、他施設スタッフも安全に活動できるよう注意を払った。また、各施設ごとの緊急時に対応を、他施設スタッフも確認した。
- ・海での活動に関しては、緊急車両や救助艇を配置し、緊急時の対策を万全に行うように留意し、活動場所ごとに看護師の待機を依頼した。

3. アンケート結果

(1) アンケート

子ども	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	82%	14%	4%	0%
この事業の活動はどうでしたか	68%	32%	0%	0%
この事業の進め方はどうでしたか	61%	35%	4%	0%

4満足 3やや満足 2やや不満 1不満

(2) 参加者の声

- ・いろいろな体験ができて、嬉しかった。友達も増えて楽しかった。来年も参加したい。
- ・時間を守ることや、友達との協力の大切さが分かった。
- ・ボランティアのみなさんがやさしくて、仲良くできた。
- ・手が痛くなったけど、みんなで力を合わせてがんばったカッター活動が一番印象に残った。
- ・時間が短かったが、キャンプファイヤーはとても心に残った。

普及啓発事業

- ・ 時間を守ることや、友達との協力の大切さが分かった。友達がたくさんできた。
- ・ ボランティアのみなさんが優しかったので、楽しい3日間になった。
- ・ 一番心に残った活動…スノーケリング7名 カッター7名 勾玉作り6名 海釣り5名
キャンプファイヤー3名

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・ 活動を通して、異年齢集団としての交流が深まり、上級生としてリーダー性を養うことができた。また、学年、男女関係なく友情が深まったという感想を多く聞くことができ、集団としてのまとまりも見られた。
- ・ 班付きボランティアリーダーが子どもたちと深く関わり、触れ合うことができ、安心して生活し、また活動に参加することができた。さらに、班付きリーダーが参加者に近い年齢ということもあり、活動全体がスムーズに進行することができた。
- ・ 5つの施設が連携し、各施設が得意分野で活動を展開することで、参加者にとって魅力的な活動を提供することができた。結果、いろいろな経験ができたという声を聞くことができ、あらためて充実した企画であることを確認した。
- ・ 昨年度の課題をもとに、時間配分の改善や参加者の把握を行うことができ、スムーズに活動ができた。

(2) 課題

- ・ 5つの施設の連携事業として、より教育的な効果を高めるためには、事業のねらい・テーマについて共通認識を図るとともに、各施設の事情や運営方法を共通理解し、調整する努力が今後も必要である。
- ・ 時間を超過するプログラムがあり、後のスケジュールに影響した。移動や片付けなど時間設定内で終了するように内容を検討する。
- ・ 参加者の振り返りやアンケートの具体的な記述を活用し、日々のねらいや活動全体のねらいの達成具合をとらえる。

5. 活動の様子

(火おこし体験)



(スノーケリング)



(夕日観察)



(カッター活動)



(海釣り体験)



(青年の家入所式)



(縄文博物館見学)



(勾玉作り)

